

## 編 集 後 記

師走となり今年（2006年）もあと一ヶ月を残すだけとなりました。12月に入って急に寒くなって冬本番の北海道になってきました。今年度も無事に2回の北海道医療大学雑誌を発行できました。これも一重に会員皆様方の暖かいご支援の賜物と感謝申し上げます。

今年も明るい話題、暗い話題、どうでもいいような話題といろいろありました。北海道を考えてみますと、なんと言っても野球、日本ハムの優勝と駒大苫小牧高校の準優勝が道民を楽しませてくれた大きな出来事でした。日本ハムも北海道に根づいた感じがします。しかし何事もうまくいった後、この成果を如何に着実に今後の発展に繋げていくことができるかが大事なことであり、また困難なことでもあると思います。逆に夕張市は財政破綻で財政再建団体への移行という大変な事態となりました。住民一人一人には何の落ち度がなくともこのような問題が起きてしまっています。これなどは我々にも無関心でいられない問題です。

北海道医療大学も少子化などの問題で安閑としてはいられない時代となってきました。今後はさらに一層の努力と研鑽を積んで特色ある大学を目指していかなければ生き残れないものと思います。歯学部でも講座制が廃止され大講座制に移行しようとしていますし、職位についても来年4月からは助教授、助手が廃止されて准教授、助教という名称になることが決まっています。このように大学自体が大きく変わろうとしています。教育、研究、診療という大学の目的の3本柱が変わることはないと思います。各自がこのいずれかの領域で最大の貢献ができるように努力していきたいと思いながらこの1年を振り返り、新しい年へ思いを馳せています。

次号（第26巻、第1号）の発行は平成19年6月30日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成19年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2006年12月15日現在、第25巻、第2号の巻末）をご参照の上、投稿してください。